

よかトピア通りに面して、コンクリートの石垣が続く。植栽が施された現代の防塁。その通りを海に向かって横切ると、埋め立てられたおしやれなまち、百道浜。

私たち夫婦の、土日の散歩コースである。約1時間の散歩は、日ごろとぎれがちな夫婦のコミュニケーション回復の時間でもある。

その道すがら、やがてくる、仕事をリタイアしたつれづれの日々に、思いをめぐらす。

総合図書館で好きな本に囲まれて過ごす。読み疲れたら映像ホールがある。バリエアでも興味深い映画をやっている。博物館の催しをのぞくのもいい。天気の良い日は、マリゾンで行き交う船を眺め、おながが空けば、食事の店には事欠かない。

私の老後は、これで決まり。

しかし、何か忘れ物があるような気がする。

先日、何気なく見ていたテレビのインタビュを思い出した。

フランスの現代建築の巨匠、ジャン・ヌーヴェルの言葉。「あなたがこれまでで一番感動した、忘れられない建物は？」

答えて曰く「子供のころ住んでいた、フランス南西部のサルラのまちなみ」と。

2017年、日本は、世界に例を見ない長寿社会を迎えるという。ところが若者に迎合するばかりのまちづくりには、うんざりさせられる。

ジャン・ヌーヴェルが語ったとき、彼は遠くを懐かしむ優しい目をしていた。

我がまちも、入れ物はたしかにそろった。通りの景観も美しい。これからは、いままで置き去りにしてきた人々への優しさ、ゆずりあい、いたわりあい、助け合い、それらを満たしてこそ子どもたちに残せる、誇らしい我がまちが出来るのではないだろうか。

そのために私たちは何をなすべきかを真剣に

## 次世代に誇れる まちづくりとは…

考える時にきていると思う。

子どもたちの未来のために。

中山泰子(早良区西新)

私もシーサイドももちのまちづくりの一端にかかわってきたが、中山さんのエッセーを読んで、豊かな生活のひとコマが目につかび、本当にいいまちに育ってきているんだ、と、うれしくなった。成熟期を迎えようとしているもちは、これからが正念場です。

(調査委員 佐藤 優)

